

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	キャリアガイダンス (688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	大内 香那子				実務経験内容	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
授業形態	演習	教室	ライブ配信	補助教員	各担任	
<p>就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
教科書	仕事力を身に付ける20のステップ					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【前期】						
1回	サンクスドリルの意義と使い方					
2～3回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する					
4～6回	意見をつくる力					
7～9回	聞く力・話す力					
10～12回	自己理解					
13回～15回	仕事理解					
16回	サンクスドリル基礎学力テスト					
【後期】						
1～3回	自己PR作成					
4～6回	先輩トークセッション					
7～9回	就活成功3ヶ条					
10～12回	選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験）					
13回～15回	面接（個人・グループディスカッション）					
16回	サンクスドリル基礎学力テスト					

評価コード

11

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。
------	--

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	映像論 (567)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	富田 正樹				実務経験内容	
					[富田] 映像業界で制作技術を経験してきた。培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像という身近な物を「商業」として成立させるために必要な知識と技術を例題を用いながら解説していく。今まで興味のなかったコンテンツにも興味を向けられるようになり、かつ既存コンテンツの制作技術の方法を理解させていく。						
授業形態	講義	教室	161教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教科書教材	新版・プロのためのビデオ取材 一般社団法人日本映画テレビ技術協会 中山秀一 著 (授業内で適宜使用)					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【1年次前期】						
1～2回：番組とは（日本の放送法について）						
3～4回：番組制作の流れ						
5～6回：番組制作の仕事とスタッフの役割						
7～8回：カメラワークの基礎						
9～10回：カメラ技術1（カメラの取扱い）						
11～12回：カメラ技術2（操作方法）						
13～14回：カメラ技術3（特殊撮影）						
15～16回：前期まとめ						
【1年次後期】						
17～18回：映像スイッチング						
19～20回：音声						
21～22回：テレビ照明						
23～24回：ENGの仕組み						
25～26回：放送技術（無線伝送等）						
27～28回：映像とは（コンテンツの将来）						
29～30回：最新映像技術について						
31～32回：まとめ						

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	--

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	編集論				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	梅村 泰成				実務経験内容	
					[梅村] 映像業界で制作技術を経験してきた。制作技術で培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像編集に関わる基礎知識を学ぶ。実際の映画や番組を見て、どんな狙いでカットが編集されているかを分析し、考察する。また古典映画も題材にし、編集の歴史の原点をおさえていく。ポストプロダクションの役割も学び、音・色・テロップなどの知識も学んでいく。						
授業方法	講義	教室	161教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教科書	ポストプロダクション技術マニュアル【第9版】一般社団法人日本ポストプロダクション協会 (授業内で適宜使用) 貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用)					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【1年次前期】						
1～2回 ポストプロダクションの役割						
2～4回 映像編集の歴史						
5～6回 テレビ放送の歴史						
7～8回 走査線について						
9～10回 映像信号について						
11～12回 タイムコード						
13～14回 VTRについて						
15～16回 映画鑑賞						
【1年次後期】						
17～18回 前期のまとめ						
19～20回 モンタージュ理論について						
21～22回 オフライン・オンライン編集について						
21～24回 リニア・ノンリニア編集について						
25～26回 様々なカット割りについて						
27～28回 イマジナリーラインについて						
29～30回 音・色調整(MA・カラーコレクション)について						
31～32回 まとめ						
□						

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	---

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	制作論 (A24)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	安田 雄太				実務経験内容	
					[安田] 映像業界で制作技術を経験してきた。制作技術で培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像制作において、必要な知識を学ぶ。特に制作全体の流れを把握することを目的とし、企画・構成などプリプロダクションの工程にあたる部分を重点的に学んでいく。						
授業形態	講義	教室	161教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教科書	世界一わかりやすい動画制作の教科書・映像メディアのつくり方 株式会社技術評論社 小島真也 著 (授業内で適宜使用) 【新版】映像制作ハンドブック 玄光社 ビデオサロン編集部 (授業内で適宜使用)					

授業計画・内容						
【1年次前期】						
1～2回 映像制作の歴史						
2～4回 映像制作の基礎知識①						
5～6回 映像制作の基礎知識②						
7～8回 映像制作の基礎知識③						
9～10回 映像制作の基礎知識④						
11～12回 映像制作の基礎知識⑤						
13～14回 映像制作の基礎知識⑥						
15～16回 映像制作の基礎知識⑦						
【1年次後期】						
17～18回 前期の復習						
19～22回 映像制作の応用知識①						
23～24回 映像制作の応用知識②						
25～26回 映像制作の応用知識③						
27～28回 映像制作の応用知識④						
29～30回 映像制作の応用知識⑤						
31～32回 まとめ						

評価コード	3					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 (100点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点 (出席および受講の状況) を20点の配点とする。成績の評定は、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、F (60点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験 (100点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述 (1) 以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1点未満については切り上げ) を成績の評定とする。 					

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	音響照明論 (A31)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像制作において、映像と同様に重要な”音響””照明”の基礎知識を学ぶ。特に”音響””照明”が映像にどのように関与していくかを理解させる。						
授業形態	講義	教室	161教室	補助教員	なし	
機材や図面や配置図などをスクリーンに映しながら、解説していく。必要な時には、学生にプリントを配布し、課題を行って最後に解説を行う。学期の最後にノートチェックを行う。						
教科書 教材	必要に応じてプリント配布					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1～2回 科目のガイダンス (音・光とは)						
3～4回 照明の仕事と基礎知識						
5～6回 「舞台照明」と「映像照明」の違い						
7～8回 基本の「3灯(点)照明」						
9～10回 音響の仕事と基礎知識						
11～12回 「録音部」の基礎知識						
13～14回 マイクロフォン (構造的分類、指向別分類、用途的分類、代表的なもの)						
15～16回 ケーブル、コネクター、その他小物 (マイクスタンドなど)						
【1年次後期】						
17～18回 基本の「3灯(点)照明」						
19～22回 人物ライティング						
23～24回 物撮りライティング						
25～26回 照明機材の種類と基本 など						
27～28回 マイクロフォンによる收音 (録音) 方法						
29～30回 ミキサーの取り扱い						
31～32回 フォーリー						
評価コード	3					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (100点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点 (出席および受講の状況) を20点の配点とする。成績の評定は、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、F (60点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験 (100点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。 (1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述 (1) 以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1点未満については切り上げ) を成績の評定とする。
------	--

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	映像制作実習1 (A27)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	安田 雄太				実務経験内容	
					[安田] 業界で制作を経験してきた。経験で培った知識・技術を活かし教育する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	10	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像制作を行うためにはどんな工程で、どのような考えで進めればいいのか、実際に映像制作を行いながら、その方法を学ぶ。特に撮影・編集だけではなく、その前段階にあたる企画・構成にも力を入れていく。						
授業形態	実習	教室	アートスタジオ	補助教員	なし	
形態は実習形式で行う。個人制作としてテーマ別でショート動画の制作を行う。また、グループワークとして映像制作を行い、必要に応じて適宜講義を行っていく。						
教科書教材	貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用)					

授業計画・内容

<p>【1年次前期】</p> <p>1～6回 ガイダンス(映像制作について説明)</p> <p>7～20回 コンテツ別作品研究(MV, CM, PV, TV, 映画など)、映像制作の流れ解説</p> <p>21～30回 ショート動画制作①</p> <p>31～40回 ショート動画制作②</p> <p>41～50回 ショート動画制作③</p> <p>51～62回 ショート動画制作④</p> <p>63～74回 ショート動画制作⑤</p> <p>75～80回 前期まとめ</p> <p>【1年次後期】</p> <p>81～91回 前期授業振り返り、後期授業について説明</p> <p>92～102回 映像制作①</p> <p>103～113回 映像制作②</p> <p>114～124回 映像制作③</p> <p>125～135回 中間試写</p> <p>136～146回 映像制作①</p> <p>147～157回 映像制作②</p> <p>158～160回 映像発表③</p>						
--	--	--	--	--	--	--

評価コード 13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点(出席および受講の状況)を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	映像編集実習1 (A29)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	吉廣 萌、梅村 泰成				実務経験内容	
					[吉廣] プライダルの編集業務に携わってきた経験を活かし、編集のノウハウを実践的に教育する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	6	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
前期は主にスマートフォンを用いて、映像編集ソフトを使用し、基本的な編集操作を身につける。また、ノートパソコンを用いて、動画編集ソフト「Premiere Pro」の習得を目指す。						
授業形態	実習	教室	161教室	補助教員	なし	
スマートフォン、ノートパソコンを使用し、ジャンルに合わせた編集のテクニックを基本から応用まで磨いていく。						
教科書	Premiere Pro よくばり入門・After Effects よくばり入門 インプレス 金泉太一 著					
教材	世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 技術評論社 ビクセルハウス 著 貸与ノート型パソコン (授業内で使用)					

授業計画・内容

【1年次前期】	
1～4回	前期授業概要説明、映像編集について
5～10回	映像編集ソフトを用いた動画編集技術の基本
11～20回	動画の種類に応じた編集の実践
21～30回	動画効果を用いた編集実践
31～34回	BGM・SEを効果的に活用した編集実践
35～38回	動画編集実習①
39～42回	動画編集実習②
43～48回	前期まとめ
【1年次後期】	
49～52回	後期授業概要説明、前期の復習
53～56回	Adobe Premiere Proについて
57～63回	映像編集の基本操作①
64～70回	映像編集の基本操作②
71～77回	エフェクト・音編集について
78～84回	Adobe Photoshopとの連携(テロップ作成等)
85～91回	動画編集実習(Premiere Pro)
92～96回	後期まとめ
□	

評価コード 13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像メディア科

科目名	コンピュータ実習1 (917)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 麻里				実務経験内容	
					[酒井] 企業等で経験して培ったコンピュータの知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	4	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
Word, Excel, PowerPointの基本操作の実習し、今後の映像音響分野で使われる、企画書、プレゼン資料などが作成できるようなスキルを備えさせる。また、Photoshop、IllustratorなどAdobeソフトウェアも学ぶことで、より精度の高い資料を制作するスキルを習得する。						
授業形態	実習	教室	161教室	補助教員	なし	
前回の復習を最初に行い、次に進めていく。使用するソフトウェアの基本スキルを習得し、出された例題をこなすことで操作方法を深めていく。ある程度できるようになったら、課題を与え、提出させる。						
教科書教材	貸与ノート型パソコン (毎授業内で使用)					

授業計画・内容

<p>【1年次前期】 1 ～ 2回 コンピュータの環境設定、基本操作の確認 3 ～ 4回 Wordの基本操作 5 ～ 10回 文章の作成と編集・表、画像の挿入(資料作成課題) 11 ～ 12回 Excelの基本操作 13 ～ 18回 数値の入力と編集・セルの編集・表計算・グラフ制作(資料作成課題) 19 ～ 22回 プレゼンに関する基礎知識 23 ～ 24回 PowerPointの基本操作 25 ～ 30回 文字の入力・表、画像、図形の挿入・アニメーションの制作(プレゼンスライド作成課題) 31 ～ 32回 前期まとめ</p> <p>【1年次後期】 33 ～ 36回 前期復習・プレゼンテーション準備 37 ～ 38回 プレゼンテーションの実施① 39 ～ 40回 Illustratorの基本操作 41 ～ 48回 図形、線の制作、編集・文字の編集・イラスト、アイコンの制作・レイアウト基礎(資料作成課題) 49 ～ 50回 Photoshopの基本操作 51 ～ 57回 画像の編集、加工、補正、合成(画像編集課題) 58 ～ 62回 Illustrator&Photoshopの応用(広告作成) 63 ～ 64回 プレゼンテーションの実施②</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード 13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点(出席および受講の状況)を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---